

## 梅雨はキノコの山

キノコの季節といえば、秋を想像される方が多いと思います。実際に食用利用されるものは秋に種類が多いため、キノコ狩りのシーズンは秋になりますが、キノコの季節は、6月から始まります。

あきる野の森で230種ほどのキノコを見てきましたが、それらの大半が6月から9月にかけて見られます。しかし、この季節にキノコ狩りをする人の姿はありません。

6月から出始めるキノコは、テングタケの仲間が多く、ほとんどが毒キノコです。有名な猛毒キノコとしては「ベニテングタケ」があり、白色の柄に赤い傘で白い斑点があり、絵本などにもよく描かれています。幸い、寒冷地に生えるキノコなので、市内ではほとんど見ることはありませんが、過去に一度だけベニテングタケらしきキノコを見掛けたことがあります。

市内で見られるテングタケの仲間は、オニテングタケ、シロオニタケ、ササクレオニシロタケなど25種類ほどになります。6月下旬に雨の中を歩いていると、白いキノコが雨の中で怪しく輝いているのを目にすることが

あります。ほとんどがテングタケの仲間だと思って間違いありません。初めは、一つ二つと数が少ないのですが、日が経つにつれて徐々に数を増やして、樹木の根に沿ってテングタケが広がっている場所が見られるようになります。梅雨明けが近いと感じます。テングタケなど、夏のキノコが観察できるのは、6月下旬から9月上旬までなので、高温多湿やヤブ蚊に悩まされます。

テングタケの仲間は、猛毒キノコがほとんどで食用にはなりません。菌根菌きんこんきんといわれ、森の中では生きている樹木と共生しており、木の根だけでは集めることができない樹木の養分を集めて根に渡し、代わりに樹木の葉で生産した養分を少しもらって生きています。森の中ではとても重要な役割を持ったキノコで、石がごろごろしている所や、やせた尾根などで木が育つのを助けています。

(杉野)

